令和７年度茨城県教育研修センター第１回外部評価委員会記録

日時	令和７年７月24日（木曜日）　午前10時から午前11時30分まで
場所	茨城県教育研修センター202研修室
出席者	【外部評価委員】 勝ニ　博亮　委員 植田　みどり委員 荒瀬　克己　委員 沼田　安広　委員 福田　勝之　委員 木野内喜久恵委員 谷津　勉　　委員 中村　千秋　委員 【茨城県教育研修センター】 所長　宮﨑　薫 次長　佐藤　義一 次長兼教職教育課長　坂上　有紀 企画管理課長　福田　純子 教科教育課長　小出　岳夫 情報教育課長　小林　正士 教育相談課長　坂本　要 特別支援教育課長　阿部　富和 企画管理課指導主事　桧山　龍樹 企画管理課指導主事　畠山　崇
次第	１　開会 ２　所長あいさつ ３　出席者紹介 ４　委員長・副委員長の選任 ５　議事 ⑴　報告 ア　令和６年度事業実績（資料１） イ　令和６年度外部評価委員会の評価結果（資料２） ウ　令和７年度事業計画（資料３） ⑵　その他 ６　研修講座参観 ⑴　新規採用教員〔初任者〕研修講座（小学校）　第６日　A班 ⑵　新規採用教員〔初任者〕研修講座（高等学校）　第７日 ⑶　ＩＣＴを活用した授業づくり研修講座　第１日　B班 ７　閉会

１　開会

２　所長あいさつ

３　出席者紹介
外部評価委員会委員及び茨城県教育研修センター事務局職員を紹介した。

４　委員長・副委員長の選任
委員長に勝二委員、副委員長に沼田委員を選任した。

５　議事
（1）報告
ア　令和６年度事業実績（資料１）
イ　令和６年度外部評価委員会の評価結果（資料２）
ウ　令和７年度事業計画（資料３）

事務局から資料１、２、３について説明後、次のような質疑応答があった。
（○は委員、●は事務局を表す）

○　受講者自身にどのような気付きがあり、それを具体的な実践に生かそうとしているのかを、どのような評価をすることによって把握しようとしているのか。
●　評価については、研修後のリフレクションアンケートが第一であり、期間を置いて受講後アンケートを12月から１月上旬にかけて行い把握する予定である。
●　今年度、アンケートの項目を大幅に変更し、研修を通してどのような気付きを得たか、業務への意欲が高まったか、学びへの意欲が高まったか、この三点について、研修終了時と、年度末に再度アンケートを実施している。昨年、初めて実施し、年度末の調査は数値が落ちる状況が見られた。学びがしっかり思い出せない、確立されていないという状況がある。今後、自分が学んだことを振り返る機会を研修の中にいかに設定して、その振り返りをもとにしてもう一度実践に向かえるようなツーサイクルや、インターバル研修をどのように充実させていくかが課題である。気付き、業務への意欲、学びへの意欲について、年度末の評価を研修内容に生かすように検討する。

○　校内研修への波及をどのように受け止めて、具体的に進めていこうとしているのか。
●　校内研修への波及について、今年度、取り組んでいるのは、受講者が学んだことを学校に持ち帰って共有するように全講座で周知していることである。管理職を対象とした研修でも、人材育成や資質向上を考える上で、重視することとして伝え、時間を設定するように働きかけている。現場の多忙感や時間の確保に課題があるが、これからも検討を重ねていく。

○　受講者と担当者のやり取りがあると聞いたが、具体的にはどのようなものか。
●　教科の研修においては、第一日等において、実践する授業の計画を立て、その後、どのような実践をしていくのか、指導案はどうするのか、どういう気付きがあったのか、それをどう反映させていくのかといった内容をメールやオンライン等で一往復もしくは二往復のやり取りをしている状況である。全員とやり取りするため、10人程度のグループに分け、指導主事等がそれぞれ担当している。

○　教科以外のやり取りはどうなっているか。

●　研修センターで行っている研修支援において、終了後も学校の研修の状況について担当者と連絡を取りながら、必要な情報や資料等を提供して自校化に向かっていただけるような関わりをしている。

●　研修支援は、Ⅰ期とⅡ期があり、各期２回まで訪問できる。例えば、５月・６月と、10月・11月に申し込みがあれば、その間、当初の理論的な確認や、途中経過の協議、最後の授業参観など、様々なやり取りができるような仕組みになっている。

○　研修支援は大事だと思うが、学校の様々な課題に向けて学校として取り込むという姿とは違うと思う。そこにどのような波及効果があるかが非常に大事である。研修の効果がわからないというスタンスでは通用しない面があるので、研修センターの取組について確認した。

（意見のため回答はなし）

○　数値的に効果を表すと、スキルアップは図れるかもしれないが、本当にそれが現場で活用されるかという視点で考えると難しいところがある。評価の仕方も定量的で数値としてはっきり打ち出していきながらも、見えないものをどのように可視化していくかということについて検討する必要がある。

（意見のため回答はなし）

○　研修センターの事業方針や研修講座の主な変更点を見ると、劇的な変化が見られ、趣旨を含め学校が本当に欲しい研修が実施されておりありがたい。学校では、必要に応じて伝達研修や授業参観をしており、受講者の資質能力が上がっていると感じる。しかし、研修センター・各学校・教育庁各課等がどのようにリンクし、フィードバックして評価につなげるかという点で、Plantを活用した県全体のスキームを整えていかなければならない。

（意見のため回答はなし）

○　Plant等をどのように活用するかという意見を集約しながら、Plant自体も使いやすいように変えていくことが大切である、また、Plantを積極的に活用しようとする管理職や教職員と併走しようとする管理職を養成するために、管理職研修が非常に重要になるのではないかと感じた。

（意見のため回答はなし）

⑵　その他

・事務局から今後のスケジュールについて説明

６　研修講座参観

⑴　新規採用教員〔初任者〕研修講座（小学校）　第６日　A班

⑵　新規採用教員〔初任者〕研修講座（高等学校）　第７日

⑶　ＩＣＴを活用した授業づくり研修講座　第１日　B班

参観後、質疑応答はなし。

７　閉会